

# アマダイ通信NO. 99

(Tile fish network letter)

2014年 元旦

## 知人・友人各位

尖閣列島と竹島、アベノミクスで明けた13年は、秘密保護法と中国の防衛識別圏設定、北朝鮮の張成沢惨殺という物騒な話で暮れようとしています。2014年の世界の平和と経済の回復、皆さんの健康、生活の向上を願い、新年の挨拶を送ります。13年に引き続き、14年も宜しく、お願い致します。今年も健康と体力・気力維持のために、上越の山で、蕎麦と地酒を楽しみながら、スキーに励みたいと思っています。同行の士を求めます。

## ◎ママチャリとタブレット

年末商戦突入の日曜日、月島の区営温水プールで千 m 泳いだ後、有楽町線に一駅乗り、豊洲のホームセンタービバホームへ。赤坂に住むエンジェルキャピタル社長の上田先輩とバッタリ。2階にスーパーの文化堂、家電のノジマも入り、本屋や衣料品店もあって便利。週一回車でまとめ買いに来ると言う。運河一本隔てた晴海に住む●はチャリで来るが、赤坂辺りに住むと大変だ。車にもチャリにも乗れなくなると、ネットスーパーに頼るのか？アマゾンや楽天が売上を伸ばし、イオンやヨーカ堂もネット販売に力を入れる訳だ。

ビバホームの自転車売場へ。26インチのママチャリの一番安いのが13800円。昔はもっと安かった。円安、元高のせいかな？もっと安いがない？と聞くと、ピンクのなら一台だけ12800円があるという。カード会員向けセール中で更に1割引きで買う。これで夜走ってもお巡りに呼び止められなくて済む。乗って帰る。娘が高校生の時に買ってやった、ライトの故障した24インチのママチャリともお別れだ。

ソニーのタブレット端末も買う。近くのドコモショップで買うより安いかな？とヨドバシにも寄ってみたが、説明を聞いてもよくわからない。どうせわからなくて誰かに使い方を聞かないといけないし、聞いてもわからない説明を何度も、長々聞くのは時間の無駄だ。近くのドコモショップで買った方が、使い方が分かるまで「駆け込み寺」として利用できると、ドコモショップで買う。習うより慣れよ！の●流。困ったら親切に教えてくれるドコモのお嬢様に、都度会いに行こう！動機が不純か？アシスタントが「社長！タブレット買うんですか？」と羨やましがっていたから、●よりITリテラシーが高い彼女が、●の悩みを「我が悩みとして」解決してくれるだろう！？と他力本願！

## ◎内視鏡が進まない！

知合いが、大腸がんだという大手設計事務所の方と来社。自宅近くの病院で診てもらったら、大腸の上部に内視鏡を先に進められないほど腫れた腫瘍があるという。癌研に行ったが混んでいて、入院は3ヶ月先になると言われ、三楽病院を紹介してくれと言う。

内視鏡が先に進めないほどの大きさの腫瘍があれば、体調も悪いと思うが、前日は接待ゴルフだったという。3ヶ月待つのも不安だろう。我が主治医、同学の後輩の名医、三楽病院の阿川院長に早速電話。月、木曜日午前に来てくれれば院長が直に診てくれるという。

内視鏡が先に進めないのに、どうして転移してないと分かるんですか？という●の初歩的な質問に、CT撮れば分かりますよと、阿川院長。

翌週月曜日、早速三楽病院に行ったらしく、翌月12月19日に入院、26日に手術することになりましたと紹介者から報告。転移していなければ、患部を切ってつないで、抗がん剤治療を3年もすれば、無罪放免、日常生活も変化なく送れる。大腸がんだったのはラッキーだ。●のようにリンパ腺に転移していなければ尚、ラッキーだ。もっともリンパ腺に転移していてもどうにか助かり、10年生存中の●の様なスーパーラッキー爺もいる！

### ◎費用対効果

12月の第一土曜日、久しぶり三鷹へ。年末恒例となった「東大三鷹国際学生宿舎生と三鷹市民の交流の集い」へ。1960年代の寮の面影を唯一残す大銀杏の並木の黄葉が、陽の光を通して金色に輝き、美しい。

駒場の廣野喜幸先生の「科学技術、リスク、コミュニケーション」という、確率論をベースとした講演も面白い。検診でがんを疑われ、精密検査を受けて癌が発見される確率は子宮頸がんが7%ほど、子宮体部がんが20%ほど、大腸癌が3%余。いきなり精密検査をすれば二度手間にならずに済むが、それでは費用がかかり過ぎ。費用対効果の関係で、予備検査で確率の高い人に絞り精密検査をする。大腸癌の場合は毎年内視鏡で検査、ポリープが見つかる度に切っていれば癌にならずに済むが、内視鏡は時に腸壁に穴を開け、死に至るリスクもある。癌にかかっている確率の低い多くの人にとっては負担が重い。

今、東北の被災地で津波対策の高い防潮堤建設の是非が問われている。膨大な費用をかけて作った高い防潮堤をいとも簡単に乗り越えて、津波が街と人を次々と呑み込んで行く様を我々は目撃したばかりだ。千年単位の津波に15mの堤防では、高さも堤防自体の寿命も間に合わない。費用対効果や景観破壊などのマイナスも考えると、毎年来る台風の高潮に耐えるくらいの高さにとどめ、大津波には高台移転や避難施設、避難路建設、教育や訓練などのハードとソフトで対応すべきではないか？

寮近くに住む常連の世話人二名は欠席したが、三鷹市民で寮同期の坂東 JR 東日本ビルディング会長など5名のOBと、日本に帰化した汪君と北京から「拉致」された!?奥さん、保育園に通う子供も参加、留学生を含めた寮生や駒場の教職員、三鷹市民と交流。懇親会では寮の近くに住み東京銀行で海外生活の長い1年先輩の辰さんが、三鷹クラブを代表して挨拶。日弁連の民暴対策委員会で上京した神戸の久米弁護士のスケジュールに合わせ夕方、歌舞伎町の無門で二次会。三年生の宮本君と、20年ほど前入寮の久米君、60代の●、80才近い平賀代表らOBが、寮という縦糸を通して繋がり、時の経つのを忘れて談論風発する。

### ◎オリンピックの身代金・・・世界で進む「中間層」の消失

●が主人公のモデルではないかと、日曜のゴルフ場で話題になった、二夜連続のドラマの後半を、その夜のテレビで珍しく2時間も見る。半世紀前の懐かしい背景と道具立ての中で、秋田の貧しい百姓の次男坊の東大生が、東京オリンピックを人質に、爆弾テロを繰り返す。革命家たりうるのは貧困の淵に沈む貧者自身か？貧困に共感したインテリゲンチヤか？テロで革命を起こせるか？大衆的、組織的革命運動によってのみ可能なのか？学生運動と大学の自治 etc、懐かしい日々の議論を思い出す。

「オリンピックの身代金」の主人公の「我が後輩」は、東海道新幹線や首都高、競技場など、オリンピック関連工事で、自分の兄を含め300人の労務者が労働災害で死に、そのほとんどが貧しい東北地方からの出稼ぎ農民であることに憤り、犯行に及ぶ。「貧困な秋田」による「豊かな東京」への復讐だ。格差は今も続き、「秋田」からの人口流出と、「東京」への人口流入は続く。しかし今、命をかけてまで異議申立しよう、オリンピックを人質に取ろうとする若者はいない。

貧困にも食えるか食えないかという絶対的貧困と、他と比べてどうかという相対的貧困の二つがある。一般に格差が小さい社会の方が構成員間の軋轢が小さく、安定性が高い。中間層が豊かであれば消費水準が高くなり、経済のバイタリティーが維持される。政府が経済政策を実施する際も、所得水準による利害対立が表面化しにくく、スムーズに実施できるが、中間層が分解し薄くなれば、社会の軋轢は増し住みにくくなる。

生産ラインの仕事や事務の仕事など、「定型的仕事」のIT化（非労務）やロボット化（労務）、ATM（現金自動受払機）による銀行窓口業務などの減少で、高卒、短大卒が多くつき、ある程度の賃金が保証される仕事は減少した。経営幹部、研究者、弁護士などの判断業務中心の「非定型・非労務」はコンピューターの活用でより高い生産性を享受する。介護や家事代行、運転手（自動運転車が普及するとどうなる？）などの「非定型労務」はロボット化が困難で技術革新の影響を受けにくい。高賃金の判断業務や低賃金のサービス業務の増加による「二極化」や、グローバル化による製造業部門の仕事などの減少は中間層を減少させ、所得階層の二極化を進め、社会を不安定にする。否応なく進むグローバル化とIT化を、人間の幸福のために役立てることは出来ないものか？

### ◎山村工作隊？農村から都市へ！

御世話になっている、環境デザイン研究所を主宰する仙田萬東工大名誉教授の建築学会大賞受賞記念講演&パーティーに声を掛けて頂くが、建築業界関係者で盛会な中で、建築に疎い🍄は異邦人の孤独を味わう。

そんな中で、仙田先生が木を多用した図書館や講義棟、食堂などを設計した関係で挨拶された、故郷秋田の教養大の鈴木二代目学長（元ICU学長）にお目通り。故郷能代の市役所建て替え設計コンペでも、仙田先生は見事な「木遣い」で当選した。建築関係のメーカーを主たる顧問先とする🍄としては、是非お手伝いさせて頂きたいプロジェクトだ。

父上が東大の学生運動の大先輩で、戦後直ぐの共産党の方針で山村工作隊として下放、能代高校二つ井分校で教鞭を取り、二つ井で生まれ育ったという青学大の建築学科の教授ともエール。直接薫陶を受けることはなかったが、能代高校で国語を教えていた白鳥先生は、その東大の先輩に秋田に呼ばれたようだ。あの白鳥先生が！と、高度経済成長前の秋田の田舎の貧しさに発奮、東京へ出てから、世の中を変えようと変身した己と重ねる。

### ◎水の国秋田で生薬栽培コマーシャル

友人から、龍角散が「水の国秋田で生薬栽培」とテレビコマーシャルを流しているが、🍄通信で書いていた、🍄の田舎の八峰町の生薬の里のこと？とメール。その週末の日曜日は八峰町の故郷会。廃校になった小学校の校舎を使った養殖アワビも順調に出荷され、町内の飲食店でも提供されている。龍角散等の東京生薬委員会による生薬栽培も順調に進み、

一部は龍角散のど飴に使われていると町長が報告。中学高校同期で、町と生薬委員会を繋いだ元龍角散取締役で顧問の加賀君を、同期生十余人で囲み盛り上がる。廃校になった母校岩館小学校も、いずれ生薬の加工場に活用され、雇用と町民所得の増加に貢献する。

昭和の大合併で誕生した旧八森町には母体の3町村に小学校があり、一番小さな岩館小学校の●の同期生でも40人いたが、今年的全町の小学一年生は35人だったという。このペースで人口減少が続けば、町がなくなる日も遠くない。日本に学んだ中国は、世界の工場としての労働力、社会保障の担い手の維持のために一人っ子政策を転換したが、日本は既に手遅れか？日本の特殊出生率は05年に1.26で底を打ち、12年に1.41。子供の数は出産適齢期女性数×出生率で決まり、20代、30代女性が少ないと絶対数は増えない。出生率が2.1まで回復しても減少が止まるのに60年かかるという。東京は2012年に出生率1.09で全国最悪。田舎で子育てすべき若者を吸い寄せて地方を消滅させ、集めた若者にも長時間労働、劣悪な居住環境、子育て環境で子供を産ませず、国全体の人口を減少させる。日本を滅ぼすのは東京だ！と言えなくもない。

少子化が問題だというのが、高齢者人口でさえ、減少すれば年金所得が減る。公共事業を増やしても、公共投資依存型の地域づくりは持続性に欠け、カンフル剤にはなるが、財政赤字という負の遺産を残す。人口の減少を前提に、不足する労働力は高齢者、女性を活用、地域の伝統を生かした産業、地元密着型の農林漁業、観光などのサービス業の地場産業の振興で地域活性化を図る必要がある。出生率が高い田舎からの人口流出を止め、東京の子育て環境、居住環境、労働環境を改善しないと人口減少は止まらない。故郷で始まったアワビの養殖と生薬栽培という二つのプロジェクトに続く、3本目、4本目の矢が欲しい！

### ◎こまちのウォシュレットと、思わぬ出会いに驚く！

11月末の金曜日、久しぶり故郷へ飛ぶ。高校同級生の中田潤県議、経産省から出向の橋口副知事に顧問先の米屋の菊太屋の若社長を紹介、故郷の米作りの情報収集。八郎瀧干拓でできた大潟村の大規模農家も頑張っているが、能代の桧山の白鳥米など美味しい米は他にも色々あるという。東名阪の有名デパートの地下食品売り場で、こだわりのブランド米を販売する菊太屋のルートに、秋田米を乗せることで、故郷へ新たな貢献が出来そうだ。

農林水産部のスタッフなどからは、熊本や北海道などでも、美味しいブランド米が増え、コシヒカリや秋田こまちの地位も安泰とは言えないので、新しいブランド米の開発も進んでいるという。菊太屋は郵パックにもお米を供給しており、この秋田の新ブランド米を菊太屋のルートで量販する話も進めたいという。

その日の夕方、スーパーこまちで直帰、秋田の駅弁と地酒で一杯、なんとスーパーこまちのトイレにはウォシュレットがついている！日本のトイレはここまで進化したか！シベリア鉄道やチベットの天空列車の汚れたトイレを思い出し、感慨。朝の全日空機内では駒場の中国語クラス同期、会計士の服部君と一緒にだったが、帰りの車内、後を振り返ると見覚えのある顔。秋田高校出身、旧国鉄の建築部隊で、レールシティ初台など、清算事業団の建物の外壁営業でお世話になった、三鷹寮の石川先輩だ。思わぬ出会いにびっくり！

### ◎アマダイのジャカルタ紀行(2012年6月22日～25日、JTB旅物語)

#### ①アザーンの朗唱が響く

初めてのジャカルタ。インド洋大津波の時、顧問先の社長とバリ島に滞在、のんびり正月休みを過ごしたのでインドネシアは二度目だ。その時ジャワ島の古都ジョクジャカルタに飛び、椰子の樹海に広がる9世紀頃に建造された世界最大の仏教遺跡、世界遺産のポロブドゥールや同時期に建造されたヒンドゥー教寺院プランナバンの巨大な寺院群を見たりもした。だが首都のジャカルタには足を踏み入れていない。ジャワで花開いたヒンドゥー教と仏教の融合文化を過去の遺物としてしまった、イスラムの息吹きにも触れていない。一度ジャカルタに行きたいと思うが、ツアー案内を目にしなない。

今回「びっくりジャカルタ4日間29800円」というJTB旅物語の宣伝文句に釣られて申し込んだら、燃油サーチャージ、空港使用料etcは別途、飛行機と二泊のホテルしかついていない。ボゴールとバンドンへのオプションツアー料金、一人参加費用を入れると11万円ほど。それに夕食二回も別途！見所てんこ盛り、全食事付きの阪急トラピクスの方がいいかな？と思うが、いかんせんジャカルタツアー自体が珍しいのだから了としなければならない。あとは自分がどれだけのものを得るか？だと、持ち前のポジティブ思考で、前向きに考える。

現地時間4時半、日本時間6時半、唯一神アッラーへの祈りを呼び掛ける、アザーンの音が、ホテルの窓越しに朗々と聞こえる。ジャカルタの朝は早い！全日空の機内食のサッポロ黒生ショート缶二本と白ワインミニ瓶一本でたっぷり昼寝したせい、夜中2時に目覚める。前日の金曜日夕方の大渋滞ほどではないが、ホテルの前の幹線道路を、バス、トラック、乗用車がひっきりなしに走る。ジャカルタは働き者の街だ。その走音を破って、アザーンの朗唱が響く。

## ②人も車も多すぎる

朝9時半成田発の全日空で、日本時間より2時間遅れの3時過ぎにスカルノハッタ国際空港着。機外に出た途端、37度の熱風が押し寄せる。添乗員なしの旅は戸惑うことも多い。成田でも47番ゲートを45番ゲートと間違えてのんびり携帯を充電、危うく「最終呼び出し」を喰らうところだった。ジャカルタでは入国審査場の前のブースに並ぶ人を何でこんな所で両替するんだろうと飛び越して、入国審査窓口の行列に並ぶと、前のブースで25ドルで入国査証を買い、パスポートに貼ってスタンプを押して貰わないと入国出来ないと言われ、逆戻り。

元々は小さな港だったこの地は、イスラム勢力が手に入るとジャヤカルタ(偉大な勝利)と改称、オランダが東インド会社を置くと、バタビアと呼び、インドネシア植民地の中心となり急速に発展した。日本軍の占領で旧称に近いジャカルタに改称され、東南アジア最大の都市に発展、今年建都450年。東インド会社が拠点を置いた旧市街はコタ地区と呼ばれ歴史的建物は博物館に姿を変え、運河も今に残り、オランダ東インド会社繁栄の名残を偲ばせる。

東西冷戦体制下、イスラムと共産党、軍部のバランスに乗り第三勢力のリーダーとして国際的に華々しく活躍、社会主義経済を推進する建国の父スカルノは、将軍スハルトのクーデターで倒れる。スハルトはイスラム勢力を煽り、30万人とも言われる「共産主義勢力」を虐殺して共産党を壊滅。強権でイスラム勢力も抑圧、開発独裁を続け、外資を呼び込み経済成長を図る。権力と富を一族と取巻きで独占したスハルトもアジア金融危機で倒れた。

イスラムの長老ワフェド、スカルノの長女メガワチと二代続いた文民大統領の下で混迷を極めた政治、経済も、軍服を脱ぎ、選挙で選ばれたユドヨノ大統領の下で、安定を取り戻した。二期目の安定政権の下で経済は成長路線に乗り安い労働力と3億人の市場を求め、外資の進出が続き、日本企業も負けてはいられないと、進出ラッシュが続く。

まずコタ地区を車で巡る。車が多すぎて中々進まない。人も多く信号がないので、車の間を命がけて縫うようにして道を渡る。「TAKSI」の他に三輪車タクシーのペチャも健在。輪タクもチラホラ。ゴミが浮かびドブ川と化した運河を渡り、博物館地区から大統領府など官庁街へ。静寂が戻り、広い緑の街路を35キロの金製の炎像を戴く独立記念塔のあるモナス広場へ。喧騒が戻り、舞台から音楽が大音量で流れ、若者が踊る。凧も上がる。屋台や露店も出て若い家族連れが週末を楽しむ。レストランでシーフード料理を楽しむ。ビール中瓶五万ルビー(五百円)。イスラムの国はどこもアルコールが高い。

### ③最大のイスラム国家はどこへ行く

2日目は標高2076mのジャワ島最大級の活火山、1983年に噴火したタンクバン・ブラフと避暑地バンドン見学。高速道路に乗るとホンダの合弁会社アストラホンダの工場。日本車は丈夫だが高く、一次取得者は安い方がいいと25才のアルバイトガイドのテイさんは言うが、車はトヨタ、ホンダ、三菱が多く日産、スズキ、ダイハツも見かける。乗っているワゴンはいすゞのディーゼル車。ドイツ車は少なく、二輪車も多い。日本でアルバイトしながら日本語を勉強したというテイさんは東証一部上場会社の現地法人の通訳、月給4万円だという。今回は友人のガイドに別の仕事が入って駆り出された。

工場地区を過ぎるとゴルフ場が続く。テイさんの会社の日本人は土日はよくゴルフをするが、土日でもビジターは七千円ほどでプレー出来、メンバーならキャディフィーのみという。結婚式場やお墓、プールのついたゴルフ場もあるという。57KMというサービスエリアでトイレ休憩。立派なモスクもあり、ケンタッキーフライドチキンなどの飲食店、コンビニのサークルKもあり、大賑わいだ。トイレの朝顔の前面に、真ん中に切り込みの入った透明プラスチック板を取り付けてある。長いトイレ人生で初体験だ。

一般道に出る。十字路に信号はなく、ロータリーが多い。馬は直角に曲がれないので、ロータリーは馬車交通の名残、自動車交通には適しないと、同行者。知識が増えた。長生きするものだ。車種や大小に係わらず一律料金の台湾の高速道路と違って、日本と同じように料金所や出口渋滞がよく起きる。或いは日本の援助で日本式を採用したのかも知れないが、目的合理性を越えてきめ細かな発想が強調されると、一人よがりになる。今、日本のエレクトロニクス産業が国際競争力を失いつつあるのに通じないか？

田舎道の真ん中でお巡りが喚き立てる。運転手が窓を開けてお札を落とす。2千ルビー(20円、トイレのチップと同額)の賄賂だ。今度は道の真ん中に男女二人が立つ。モスクへの募金だとガイド。スハルト時代に抑圧されたイスラムだが、最近はイスラム教徒の覚醒が進み、世俗主義の、寛容なイスラム国家のインドネシアで、イスラム至上主義的風潮が強まっているとクリスチャンのガイド。日常生活で不都合はないが、新しく教会などを建てる時は難しい空気だという。信者二億人、最大のイスラム国家はどこへ行く？(続く)

### ◎「老化にどう向き合うか？」・東大三鷹クラブ第112回定例懇談会

年明け1月の第112回三鷹クラブ定例懇談会の講師は昭和29年入寮の松下 哲さんです。松下さんは、医学部医学科卒後、第三内科、浴風会病院、アメリカボストンのタフツ大学研究員としての勤務を経て、昭和47年から、東京都健康長寿医療センター（旧養育院附属病院）において30余年にわたって老人医療の現場で活躍されました。現在も、習志野市の大久保クリニック院長として、特別養護ホーム入所者などの診療にあたっておられます。

その松下さんから、ふた月ばかり前「なぜ、どのようにわれわれは老化するか」と題する1冊の本を頂戴しました。松下さんの多年にわたる貴重な御経験と、老人問題についての広汎な御研究の集大成とも言うべき著書でした。何よりも、老化に関して、広い視野から、余す所なく論じておられることに感服いたしました。御専門の老年学、老年医学について、あらゆる分野を網羅しているばかりでなく、分子生物学、生態学、統計学、さらにはさまざまな人文系の領域にまで筆を進めておられます。引用しておられる文献等も、最新の学説を含め、驚くほど多岐にわたります。正直に申し上げますと、門外漢の私には咀嚼出来ない事項もありました。しかし、その文章の中に、そして随所に掲載しておられるエッセイの中に、私達が個人として、あるいは社会として、老化にどう向き合うかのカギとなる問題を少なからず見出すことが出来ました。

私自身、すでに満80才の坂を越えました。身体的能力の衰え、持病の悪化とともに、認知機能の低下が年令とともに進んでいるように思われます。子供は居らず、現状では妻と2人だけの通常の生活を営んでいますが、いつ老々介護の状態になっても、不思議ではありません。定例会に元気で出て来られるメンバーの方々も、三鷹クラブ発足の頃からすれば、かなり年令が高くなっております。今回松下さんには、難しい理屈はさておき、私達の現実に即して、どうして老化するか、老化に対してどう身を処すべきか、どうすれば心身の健康を維持出来るか、要介護状態に直面した時、どのような心構えが望ましいかなど、老化にどう向き合うかを、健康長寿医療センターの患者さんの要介護のデータと共に、日常に役立つ挿話をまじえてお話しいただける予定です。（文責 S26年入寮平賀俊行）

日時：平成26年1月31日（金） 18時30分～21時

場所：学士会館本館203号室（千代田区神田錦町3-28 TEL 03-3292-5931）

会費：5000円（会場費、夕食代・飲み物代、通信費など込み）

定員：60名（先着順：定員を超えない限り特に連絡は致しません）

申込先：平賀・干場 FAX 03-5689-8192 TEL 03-5689-8182

（有）ティエフネットワーク Email：[tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp](mailto:tfn-hoshiba@blue.ocn.ne.jp)

二次会：別途 近くの中国料理店 SANKOUEN で、講師参加で行います。

## ◎第二回歌舞伎観劇会

11月4日の振替え休日、半年振り二度目の、三鷹クラブの国立劇場での歌舞伎観劇会。46人のところ1人チェック漏れ、元国税庁長官、元JT社長、会長の水野大先輩に平謝り。

演目は三大敵討ちの一つ、荒木又右衛門の「伊賀越え双六道中」。人間国宝藤三郎と橋之助が主役の荒事で好評。東南アジアの水中劇などと同じ、義理人情、勧善懲悪の荒事と色事、偉大なる学芸会、名古屋の山本屋の味噌煮込みうどんのようにハマりそうだ。

藤三郎の奥方は元運輸大臣の女優扇千景。奥方、義母さんと観劇、扇運輸大臣に仕えた運輸省OBで空港施設副社長の丸山博君、大臣の70歳の誕生日に、予算不足で大臣のお年

の数しか買えませんでしたと、50本の薔薇の花束を送った、役人の鏡でしようと、自画自賛。好評なので、国立劇場の西沢文孝君（94年入寮）には新春も汗をかいて頂きます。

### ◎東大留学生との国際文化交流会

お世話になっている郷里の先輩で、設備設計事務所 PAC の後藤会長が、日本に帰化した台湾出身の貿易商の奥さんで大陸出身の、知り合いの高さんを伴い来社。高さんの娘さんが通う幼稚園で、国際文化交流をしたいので、アルバイト半分でお相手をしてくれる三鷹寮の留学生を紹介してくれないかという。昔の自治寮の三鷹寮であれば、寮委員会に連絡、募集して貰えば済む話だが、残念なことに、寮が自治の学校としての機能を大学に奪われ、大学も管理放棄状態の現状では難しい。取り敢えず、本郷の留学生支援センターに同行、趣旨を説明、協力を仰ぐ。大学、留学生にとっても、クライアントにとってもいい話で、トントン拍子に話が進む。以下は、高さんからの報告とお礼のメール（ママ）です。

☆干場先生、ご連絡頂き、誠にありがとうございます。

東大留学生の件について私からも報告致す所ですが、実は先月 22 日干場先生と後藤先生と一緒に東大留学生支援センターに行った後、センターの藤田先生と連絡を取り、必要な書類を提出しました、それから約一週間後、10月31日に東大留学生センターから求人情報を学生たちに開示したそうです、それから今日まで4日間19件約9ヶ国の学生から問い合わせがありました、私は今書類を選考し、幼稚園と話し合いながら早くて今月7日に一回目のイベントを実現したいと思っております、又経過を干場先生と後藤先生に後ほどご報告致します。 高 咏梅

☆干場先生、こんばんは。

11月7日に東大留学生の国際文化交流会を町田市の聖アンナこどもの家にて始めて行いました。お陰様で、イランから来た東大留学生2名に来て頂いて、子供たちと楽しく会話を交わしながら、自ら母国の歌、手遊びなど披露し、子供たちからも歌、手作りのメダルなどを受け取り、一時間ほど思い出になる時間を過ごしました。その後、園では留学生から教わられた手遊びが子供たちの間で人気の遊びになり、子供にとって良い思い出が出来たと思われました、留学生側からも日本に対する印象を聞くと、日本の子どもが大人しく普段に自分が付き合っている日本人のお友達に関する印象と一致していたと共に、物覚えが速く、集中力があると言う事が印象的でしたなどを話し、今回の国際交流に参加することに良い経験になり、ぜひまた参加したいとコメントを頂きました。

初めての国際交流でよい結果になったと思っておりますが、またまた経験不足で、改善点も沢山あると思っております、今後とも後藤先生と干場先生のサポートに答えられるようなより良いイベントを企画したいと思っております、宜しく願いいたします。高 咏梅より

### ◎同期生の通夜に（読了多謝！）

11月1日の金曜日、駒場の中国語クラスの同期会。完全リタイア、悠々自適の同期生も増えたが、80歳までの住宅ローンを組むリスクを取り大反省の🍀、頑張らなくちゃ！ご支援お願いします。その前日は寮同期で郵政省OBの鳥越君の通夜。しばらく同窓会の講演会で見かけなかったら、膵臓がんを患っていた。早期発見がガン治療の鍵だが、膵臓がんは発見も治療も難しい。🍀の「闘病記」は役に立ったのか？気分を害さなかったか？（再見）